

## 全学アセスメントプラン

### 1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

### 2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、各学位プログラムのディプロマ・ポリシーにおいて定めている。また、愛媛大学憲章に掲げた育成する5つの能力を踏まえて、専攻分野の違いを越えて全ての学生に対して卒業までに身につけることを期待する具体的な力として「愛大学生コンピテンシー」を定めている。

※アセスメントプランとは ー教学マネジメント指針（中央教育審議会大学分科会 R2. 1. 22）における定義ー

学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。

### 3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	新入生アンケート	毎年4月	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援や初年次教育などカリキュラムの改善、自己点検・評価、情報公開に活用
2	学年末アンケート	毎年1-3月	全学年	学習行動、授業・カリキュラム満足度	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業予定者アンケート	毎年1-3月	4年生	在学中の状況、愛大学生コンピテンシーの習得状況	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	授業アンケート (共通教育)	毎年4回 (各クォーター)	全学年	学習の状況、授業の満足度	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構(共通教育センター)が共通教育センター会議に報告し、共通教育の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
5	成績不振学生の調査	毎年2回	全学年	学業不振の状況(GPA、修得単位数、休学者数)	修学支援システム	教育・学生支援機構/各学部	各学部が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
6	休退学調査	毎年1回	全学年	休学者数、退学者数	修学支援システム	教育・学生支援機構/各学部	各学部が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
7	学生モニター会議	ニーズに応じて	全学年 (学生代表者)	学習行動、授業・カリキュラム満足度	インタビュー調査	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が各学部に報告し、授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価に活用
8	学生代表者会議	毎年1回	全学年 (学生代表者)	キャンパスライフ、カリキュラム満足度、大学への要望	学長と意見交換	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が関係部署に報告し、学生へのフィードバックを検討
9	卒業者の進路状況	毎年1回	4年生	卒業者の進路(就職率、県内就職率、進学率)、就職支援への評価	修学支援システム	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	卒業生調査	毎年1回	卒業後3年経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用